

公 開
資 料 3

第 3 9 9 回 幹 事 会
公 開 審 議 事 項 ②

令和8年4月10日

日 本 学 術 会 議

Ⅲ 公 開 審 議 事 項

件名・議案	提案者	資料 (頁)	提案理由等 (※シンポジウム等、後援関係については概要を記載)	説明者	根拠規定等
1. 提言等関係					
提案 1	提言「壊滅的災害が想定されるメガシティの防災力強化に向けた科学技術イノベーション」について日本学術会議会則第2条第3号の「提言」として取り扱うこと	土木工学・建築学委員会委員長	別冊 土木工学・建築学委員会において、提言を取りまとめたので、関係機関等に対する提言として、これを外部に公表することとしたい。 ※科学的助言等対応委員会査読	土木工学・建築学委員会 IRDR分科会 委員長	内規 2 条 5 項
2. 協力学術研究団体関係					
提案 2	日本学術会議協力学術研究団体を指定すること	会長	3 日本学術会議協力学術研究団体への新規申込のあった下記団体について、科学者委員会の意見に基づき、指定することとしたい。 ①公益財団法人日本メンデル協会 ※令和8年4月10日現在2,214団体（上記申請団体を含む）	三枝副会長	会則36条
3. 国際関係					
提案 3	令和8年度代表派遣について、実施計画を変更すること	会長	4 令和8年度代表派遣について、実施計画の変更をする必要があるため。	日比谷副会長	国際交流事業の実施に関する内規第21条
4. シンポジウム等					
提案 4	公開シンポジウム「分野横断を活性化する『防災減災連携研究ハブ(JHoP)』が目指す持続可能でレジリエントな社会」の開催について	土木工学・建築学委員会委員長	5 主催：土木工学・建築学委員会 IRDR分科会、防災減災連携研究ハブ(JHoP) 日時：令和8年6月3日(水) 10:00～17:30 場所：日本学術会議講堂(東京都港区)(ハイブリッド開催) ※第三部承認	—	内規別表第2
提案 5	公開シンポジウム「AI for Chemical Sciences」の開催について	化学委員会委員長	9 主催：化学委員会、化学委員会化学企画分科会 日時：令和8年6月11日(木) 13:10～17:10 場所：大学共同利用機関法人自然科学研究機構分子科学研究所研究棟201号室(愛知県岡崎市)(ハイブリッド開催) ※第三部承認	—	内規別表第2

提案6	公開シンポジウム 「安全工学シンポジウム2026」の開催について	総合工学委員会委員長、機械工学委員会委員長	11	主催：総合工学委員会・機械工学委員会 合同工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会 日時：令和8年6月24日（水）10：00～16：00、6月25日（木）10：00～16：50、6月26日（金）10：00～16：40 場所：日本学術会議講堂、会議室6-A((1)(2))、6-C((1)(2))（東京都港区）（ハイブリッド開催） ※第三部承認	—	内規別表第2
提案7	公開シンポジウム 「昆虫科学はおもしろい～国際昆虫学会議の記念誌が伝える昆虫科学の最前線～」の開催について	農学委員会委員長	20	主催：農学委員会応用昆虫学分科会 日時：令和8年6月27日（土）13：00～17：00 場所：オンライン開催 ※第二部承認	—	内規別表第2
提案8	公開シンポジウム第31回史料保存利用問題シンポジウム 「アーキビスト養成環境の現状と課題—専門職としての広がりのために—」の開催について	史学委員会委員長	23	主催：史学委員会、同委員会アーカイブと社会に関する分科会、日本歴史学協会 日時：令和8年6月27日（土）13：30～17：30 場所：一橋大学東2号館2201室（東京都国立市）（ハイブリッド開催） ※第一部承認	—	内規別表第2
提案9	日本学術会議中部地区会議学術講演会 「現実への三つの眼差し——自然科学・社会科学・人文科学の世界理解をめぐる対話」の開催について	科学者委員会委員長	25	主催：中部地区会議 日時：令和8年7月10日（金）13：00～16：30（予定） 場所：信州大学松本キャンパス附属図書館・中央図書館2階セミナー室（長野県松本市）（ハイブリッド開催） ※科学者委員会承認	—	内規別表第2
提案10	公開シンポジウム 「学術研究の自由と独立性とは何か：歴史・理論・課題」の開催について	法学委員会委員長	28	主催：法学委員会 日時：令和8年7月18日（土）13：00～17：30 場所：オンライン開催 ※第一部承認	—	内規別表第2
提案11	公開シンポジウム 「量子・AI・脳と農芸化学の融合—食品科学の新潮流—」の開催について	農学委員会委員長、食料科学委員会委員長	31	主催：食料科学委員会・農学委員会合同農芸化学分科会 日時：令和8年7月25日（土）13：00～16：30 場所：オンライン開催 ※第二部承認	—	内規別表第2

5. 後援

提案12	国内会議の後援をすること	会長	33	以下について、後援の申請があり、関係する部に審議付託したところ、適当である旨回答があったので、後援することとしたい。 ・Japan Open Science Summit 2026 (JOSS2026)	—	後援名義使用承認基準3(2)ウ
------	--------------	----	----	--	---	-----------------

件名						資料(頁)
参考	今後の予定 今後の幹事会及び総会の日程につきご確認ください。次回幹事会は5月29日(金)13:30～開催予定。					34

日本学術会議協力学術研究団体の新規指定について

	団体名	概 要
1	公益財団法人日本メンデル協会 https://square.umin.ac.jp/mendel/	本団体は、遺伝学の普及・振興と遺伝学の祖メンデル (J. G. Mendel) の業績の顕彰を行い、社会における細胞遺伝学と細胞生物学の理解を深めることを目的とする。

令和 8 年度代表派遣実施計画の変更等について

以下のとおり、令和8年度代表派遣実施計画(第 397 回幹事会(令和8年2月 27 日)にて承認済)の変更等を行う。

	会議名称	会 期	開催地/ 形式等	派遣候補者 (職名)	推 薦	内 容
1	世界科学フォーラム (WSF)2027第2回運営委員会	4月頃 ↓ 4月 30 日	イスタンブール (トルコ)	日比谷 潤子 副会長、第一部会員 (国際基督教大学名誉教授)	国際委員会 ISC 等分科会	<ul style="list-style-type: none"> ・会期変更 ・現地出席予定からオンライン出席に変更

公開シンポジウム

「分野横断を活性化する『防災減災連携研究ハブ(JHoP)』が目指す持続可能でレジリエントな社会」の開催について

1. 主 催：日本学術会議土木工学・建築学委員会 IRDR 分科会、防災減災連携研究ハブ (JHoP)
2. 共 催：国立研究開発法人防災科学技術研究所
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和 8 (2026) 年 6 月 3 日 (水) 10:00 ~ 17:30
5. 場 所：日本学術会議講堂 (東京都港区六本木 7-22-34) (ハイブリッド開催)
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

日本学術会議土木工学・建築学委員会 IRDR 分科会は、国際学術会議 (ISC) と国連防災機関 (UNDRR) が主導する Integrated Research on Disaster Risk (IRDR) の日本国内委員会の役割を果たしている。2025 年 12 月 9 日には、学術フォーラム「世界の防災の未来：災害の経験をふまえたメガシティの防災力強化に向けた科学技術イノベーション」を防災減災連携研究ハブ(JHoP)と共催で行い、現在は「提言：壊滅的災害が想定されるメガシティの防災力強化に向けた科学技術イノベーション」(4月幹事会審議事項)に関して、共同で議論を深めている。

JHoP は、2019 年より、防災・減災に関わる大学・研究機関・実務機関の 20 組織の連携により、災害リスクの軽減 (仙台防災枠組)、持続可能な開発 (SDGs)、気候変動適応 (パリ協定) という相互に関連する社会課題の統合的な解決を目指すネットワークであり、各参画機関の強みを生かした取組を展開している。IRDR 分科会では、JHoP を母体として、上記 3 社会課題を統合的に扱う組織という意味で「ICoE-Coherence」という名称で、IRDR の国際研究拠点 (ICoE) に応募し採択された。JHoP は、IRDR 分科会の活動を共にしており、日常的には、月次の JHoP 合同タスクフォース会議を通じて、20 組織の分野横断的な議論と連携・協力を進めている。

本シンポジウムでは、JHoP 参画機関による「個別の取組」、IRDR 分科会を介した「共同の取組」について広く紹介することを目的としている。本機会は JHoP にとって、初めての

公開シンポジウムであり、日本学術会議との共同開催を通して、各組織の災害・防災研究や活動を通して、学術と社会をつなぐためのさらなる強化を目指すものである。

(参考) JHoP 参画組織一覧 (2026年3月現在)

1. 東北大学災害科学国際研究所 (IRIDeS)
2. 東京大学地震研究所(ERI)
3. 東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター (CIDIR)
4. 東京大学地球環境データコモンズ (COMS)
5. 政策研究大学院大学 (GRIPS)
6. 新潟大学災害・復興科学研究所 (NHDR)
7. 名古屋大学減災連携研究センター (DMRC)
8. 京都大学防災研究所(DPRI)
9. 京都大学 水・エネルギー・災害研究教育ユネスコチェア (WENDI)
10. 香川大学 四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構 (IECMS)
11. 九州大学大学院 工学研究院 附属 アジア防災研究センター (KUDRC)
12. レジリエンス研究教育推進コンソーシアム (R²EC)
13. 国立研究開発法人防災科学技術研究所 (NIED)
14. 国立研究開発法人海洋研究開発機構 (JAMSTEC) 付加価値情報創生部門 (VAiG)
15. 国立研究開発法人土木研究所水災害・リスクマネジメント国際センター (ICHARM)
16. 阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター(DRI)
17. 一般社団法人日本防災プラットフォーム(JBP)
18. 埼玉大学社会変革研究センター
19. 日本赤十字看護大学附属災害救護研究所 (DMRI)
20. 熊本大学くまもと水循環・減災研究教育センター (CWMD)

9. 次 第:

オープニング進行：臼田 裕一郎 (日本学術会議連携会員／国立研究開発法人防災科学技術研究所総合防災情報センター長／防災情報研究部門長)

10:00 はじめに：JHoP の紹介

小野 裕一 (日本学術会議連携会員／東北大学災害科学国際研究所副研究所長／教授)

10:10 代表挨拶：開催の意義

寶 馨 (日本学術会議連携会員／国立研究開発法人防災科学技術研究所理事長／京都大学名誉教授)

10:25 基調講演：日本学術会議と JHoP の連携

田村 圭子 (日本学術会議第三部会員／新潟大学危機管理本部危機管理センター特任教授)

セッション進行：田村 圭子（日本学術会議第三部会員／新潟大学危機管理本部危機管理センター特任教授）

第一セッション「JHoP 各組織の活動と連携①」

◇第一部総合司会

大原 美保（日本学術会議連携会員／東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター教授）

10:40 5組織（12分×5）からの紹介

- ・各組織の活動

11:40 5組織によるパネル

- ・JHop で実現したいこと
- ・日本学術会議との連携で実現したいこと

昼休憩（60分）（12:00～13:00）

第二セッション「JHoP 各組織の活動と連携②」

◇第二部総合司会

平田 京子（日本学術会議連携会員／日本女子大学建築デザイン学部建築デザイン学科教授）

13:00 5組織（12分×5）からの紹介

- ・各組織の活動

14:00 5組織によるパネル

- ・JHop で実現したいこと

休憩（10分）（14:20～14:30）

第三セッション「JHoP 各組織の活動と連携③」

◇第三部総合司会

栗林 大輔（土木工学・建築学委員会 IRDR 分科会 IRDR 活動推進小委員会委員／国立研究開発法人土木研究所水災害・リスクマネジメント国際センター上席研究員）

14:30 5組織（12分×5）からの紹介

- ・各組織の活動

15:30 5組織によるパネル

- ・JHop で実現したいこと

休憩（10分）（15:50～16:00）

第四セッション「JHoP 各組織の活動と連携④」

◇第三部総合司会

臼田 裕一郎（日本学術会議連携会員／国立研究開発法人防災科学技術研究所総合防災情報センター長／防災情報研究部門長）

16:00 5組織（12分×5）からの紹介

- ・各組織の活動

17:00 5組織によるパネル

- ・JHop で実現したいこと

17:20 おわりに：今日のまとめ

多々納 裕一（日本学術会議第三部会員／京都大学防災研究所社会防災研究部門教授）

20 組織のセッション割り振りイメージ（調整中）

セッション	ID	組織名
①	1	東北大学 災害科学国際研究所 (IRIDeS)
①	5	政策研究大学院大学 (GRIPS)
①	9	京都大学 水・エネルギー・災害研究教育ユネスコチェア (WEND1)
①	13	国立研究開発法人 防災科学技術研究所 (NIED)
①	17	日本防災プラットフォーム (JBP)
②	2	東京大学地震研究所 (ERI)
②	6	新潟大学 災害・復興科学研究所 (NHDR)
②	10	香川大学 四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構 (IECMS)
②	14	国立研究開発法人 海洋研究開発機構 (JAMSTEC) 付加価値情報創生部門 (VAiG)
②	18	埼玉大学 社会変革研究センター
③	3	東京大学大学院 情報学環総合防災情報研究センター (CIDIR)
③	7	名古屋大学 減災連携研究センター (DMRC)
③	11	九州大学大学院 工学研究院 附属 アジア防災研究センター (KUDRC)
③	15	国立研究開発法人 土木研究所水災害・リスクマネジメント国際センター (ICHARM)
③	19	日本赤十字看護大学 附属災害看護研究所 (DMRI)
④	4	東京大学 地球環境データコモンズ (COMS)
④	8	京都大学防災研究所 (DPRI)
④	12	レジリエンス研究教育推進コンソーシアム (R ² EC)
④	16	阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター (DRI)
④	20	熊本大学 くまもと水循環・減災研究教育センター (CWMD)

10. 関係部の承認の有無：第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

公開シンポジウム
「AI for Chemical Sciences」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議化学委員会、化学委員会化学企画分科会
2. 共 催：大学共同利用機関法人自然科学研究機構分子科学研究所、公益社団法人日本化学会戦略企画委員会
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和 8（2026）年 6 月 11 日（木）13：10 ～ 17：10
5. 場 所：大学共同利用機関法人自然科学研究機構分子科学研究所研究棟 201 号室
（愛知県岡崎市明大寺町字西郷中 38）（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり
8. 開催趣旨：

本シンポジウムは、日本学術会議化学委員会、同委員会化学企画分科会、大学共同利用機関法人自然科学研究機構分子科学研究所、及び公益社団法人日本化学会戦略企画委員会の合同開催会議として毎年開催し、化学分野における様々な重要課題を取り上げて議論し提言、見解等を発出してきた。今回は、近年急速な発展を遂げている AI に関し、化学及び周辺分野にどのような効果を及ぼすか、どのように対応していくか、などの点について、広い観点から議論する。教育や研究の現場、その論文成果の取りまとめ等において、今後 AI が不可欠な手段となると考えられており、化学の関連研究分野のどのような場面で、何に AI を導入して取り組むか、問題点も含めて将来を見据えた議論が必要となってきた。今回、分子科学研究所所長招聘会議（日本学術会議化学委員会、公益社団法人日本化学会との共同開催）では、実際の大学等での先端研究分野、企業の研究開発分野での AI の活用の事例、それに関連する教育・人材育成について、また行政が行っている取組に関しても理解を深め議論する場を設定する。本シンポジウムは、単に化学、サイエンスに関わる議論をするものではなく、様々な立場の方々を巻き込んで、我が国の科学の振興にうねりを作ることでできる場を創ることを目指す。

9. 次 第：

司会 山本 浩史（日本学術会議連携会員／大学共同利用機関法人自然科学研究機構分子科学研究所教授／総合研究大学院大学先端学術院教授）

13：10 挨拶

渡辺 芳人（日本学術会議連携会員／大学共同利用機関法人自然科学研究機構分子科学研究所所長）

13：25 化学委員会報告及び趣旨説明

岡本 裕巳（日本学術会議第三部会員／大学共同利用機関法人自然科学研究機構分子科学研究所名誉教授）

14：00 講演「大学の物質科学研究における AI（仮）」

一杉 太郎（日本学術会議連携会員／東京大学大学院理学系研究科教授）

14：30 講演「企業の開発研究における AI（仮）」

森田 秀和（株式会社日立製作所公共システム事業部公共基盤ソリューション本部本部長）

15：00 休憩

15：20 講演「創薬研究における AI（仮）」

難波 里子（名古屋大学大学院情報学研究科博士研究員）

15：35 講演「創薬研究における AI 人材育成（仮）」

山西 芳裕（名古屋大学大学院情報学研究科複雑系科学専攻生命情報論教授）

16：00 講演「科学研究における AI に関する国の取り組み（仮）」

服部 正（内閣府科学技術・イノベーション推進事務局参事官／文部科学省研究振興局参事官）

16：30 総合討論

（司会）鈴木 朋子（日本学術会議第三部会員／株式会社日立製作所専門理事／研究開発グループ技師長）

17：10 閉会

10. 関係部の承認の有無：第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催委員会・分科会委員）

公開シンポジウム
「安全工学シンポジウム 2026」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議総合工学委員会・機械工学委員会合同工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会
2. 共 催：一般社団法人日本機械学会（幹事学会）、特定非営利活動法人安全工学会、公益社団法人化学工学会、一般社団法人火薬学会、公益社団法人計測自動制御学会、公益社団法人自動車技術会、一般社団法人静電気学会、一般社団法人地域安全学会、公益社団法人低温工学・超電導学会、公益社団法人電気化学会、一般社団法人電気学会、一般社団法人電気設備学会、一般社団法人電子情報通信学会、公益社団法人土木学会、公益社団法人日本化学会、公益社団法人日本火災学会、公益社団法人日本技術士会、一般社団法人日本原子力学会、一般社団法人日本建築学会、一般社団法人日本高圧力技術協会、一般社団法人日本航空宇宙学会、公益社団法人日本材料学会、日本信頼性学会、公益社団法人日本船舶海洋工学会、一般社団法人日本鉄鋼協会、一般社団法人日本人間工学会、一般社団法人日本燃焼学会、一般社団法人日本非破壊検査協会、一般社団法人日本溶接協会、一般社団法人日本リスク学会、公益社団法人日本冷凍空調学会（全て予定）
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和 8（2026）年 6 月 24 日（水）10：00 ～ 16：00
6 月 25 日（木）10：00 ～ 16：50
6 月 26 日（金）10：00 ～ 16：40
5. 場 所：日本学術会議講堂、会議室 6-A((1)(2))、6-C((1)(2))
（東京都港区六本木 7-22-34）（ハイブリッド開催）
3つのパラレルセッションで、全ての会場でハイブリッド開催
（第 1 室：講堂、第 2 室：6-A((1)(2))、第 3 室：6-C((1)(2))を会場として使用）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

わが国における安全に関する学際的なシンポジウムとして日本学術会議主催で50年以上にわたり継続して実施されてきている。毎年幹事学会が順番で担当し、実行委員会を組織し、テーマを決めて実施する。2026年度は、第56回として日本機械学会が幹事学会となり企画・運営を行い、「イノベーションと安全」のテーマのもと開催される。共催学会名にみられるように多分野の研究者の発表の場であり、意見交換の場ともなっている。異分野間での安全に対する取組の差異、あるいは共通する理念について有意義な意見交換が期待でき、日本学術会議第24期課題別委員会で議論した「自動車の自動運転の推進と社会的課題」、加えて、日本学術会議総合工学委員会・機械工学委員会合同工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会で進めている「変化する技術と社会に対応する安全とリスク」、「工学システムに対する安心感」、「老朽及び遺棄化学兵器の廃棄に係るリスク評価とリスク管理」をはじめとする検討成果の広く一般への発表がなされ、多分野の専門家からの意見集約も期待できる。

9. 次 第（予定）：

【6月24日（水）10：00～15：50】

第1室（講堂）

10：00～10：10 開会式・開会挨拶：

玉田 薫（日本学術会議第三部会員／九州大学主幹教授・副学長）

10：10～11：40 オーガナイズドセッション

「AIのイノベーションと安全の両立を考えるためのリスクガバナンス」

司会：永井 孝志（国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構農業環境研究部門
上級研究員）

岸本 充生（日本学術会議連携会員／大阪大学D3センター教授・社会技術共創研究センター長）

1 安全学・リスク学の知見を取り入れたAIリスクマネジメントの事例紹介

岸本 充生（日本学術会議連携会員／大阪大学D3センター教授・社会技術共創研究センター長）

2 多層化するAIリスク：製品安全と基本権保護

工藤 郁子（大阪大学社会技術共創研究センター特任准教授）

3 「迷惑系AIエージェント」という新しいリスク

長門 裕介（大阪大学社会技術共創研究センター講師）

4 AIエージェント、フィジカルAI時代のAIガバナンス

美馬 正司（株式会社日立コンサルティングディレクター／慶應義塾大学政策・メディア研究科特任教授）

13：10～14：10 特別講演「イノベーションを可能にする安全—機械安全の視点から—」

講演者：福田 隆文（長岡技術科学大学名誉教授）

司会：清水 尚憲（独立行政法人労働者健康安全機構労働安全衛生総合研究所新技術安全研究グループ特任研究員）

14：20～15：50 パネルディスカッション「イノベーションと安全」

ファシリテーター：清水 尚憲（独立行政法人労働者健康安全機構労働安全衛生総合研究所新技術安全研究グループ特任研究員）

パネリスト：調整中

第2室

10：10～12：10 オーガナイズドセッション

「安全と安心感」

司会：庄司 裕子（日本学術会議連携会員／中央大学理工学部教授）

大倉 典子（日本学術会議連携会員／中央大学研究開発機構機構教授／芝浦工業大学名誉教授）

1 工学システムに対する「安心感」の醸成

大倉 典子（日本学術会議連携会員／中央大学研究開発機構機構教授／芝浦工業大学名誉教授）

2 安心に関する考察 - 分析的研究の紹介 -

鳥居塚 崇（日本大学生産工学部創生デザイン学科教授）

3 ポストコロナの時代に「リスク」を考える

神里 達博（日本学術会議連携会員／千葉大学大学院国際学術研究院教授）

4 安全と安心感

庄司 裕子（日本学術会議連携会員／中央大学理工学部教授）

総合討論

コーディネータ：庄司 裕子（日本学術会議連携会員／中央大学理工学部教授）

14：20～16：00 オーガナイズドセッション

「火薬研究のSDGsへの挑戦」

司会：富山 昇吾（株式会社IPR コンサルタント技術コンサルタント）

吉野 悟（日本大学生産工学部教授）

1 SDGsに対する火薬関連技術の取組みの現状

吉野 悟（日本大学生産工学部教授）

2 食品廃棄物を活用したグリーン火工品技術の開発

西脇 洋佑（独立行政法人労働者健康安全機構労働安全衛生総合研究所化学安全研

究グループ主任研究員)

- 3 火工品を活用した閉鎖水域水質改善に向けた技術的アプローチ
塩田 謙人 (福岡大学工学部助教)
- 4 海洋プラスチックの燃焼特性評価およびハイブリッドロケット固体燃料への応用
大野 萌恵 (日本大学理工学部)
- 5 食品廃棄物を原料としたニトロセルロースの合成と物性評価
加藤 勝美 (福岡大学工学部教授)

第3室

- 10:10~11:30 一般セッション
14:20~15:40 一般セッション

【6月25日(木) 10:00~16:50】

第1室(講堂)

10:00~11:30 オーガナイズドセッション

「自動車の自動運転の現状と展望」

司会：鎌田 実 (日本学術会議連携会員／一般財団法人日本自動車研究所代表理事・研究所長／東京大学名誉教授)

- 1 自動運転レベル4等先進モビリティサービス研究開発・社会実装プロジェクト「RoAD to the L4」
横山 利夫 (国立研究開発法人産業技術総合研究所招聘研究員)
- 2 テーマ1. 遠隔監視のみ(レベル4)自動運転 サービスの実現に向けた取り組み及び
テーマ2. 公道交差を含む専用道区間等におけるレベル4自動運転サービスの実現に向けた取り組み RTL4 テーマ1 & 2
加藤 晋 (国立研究開発法人産業技術総合研究所主席研究員)
- 3 テーマ3. 高速道路における高性能トラックの実用化に向けた取り組み
小川 博 (株式会社ネクスティエレクトロニクス技監)
- 4 テーマ4. 混在空間でインフラ協調を活用したレベル4自動運転サービスの実現に向けた取り組み
中野 公彦 (東京大学生産技術研究所教授)

12:40~14:40 オーガナイズドセッション

「信頼性・安全性の分野横断的将来展望」

司会：井面 仁志 (香川大学創造工学部教授)

- 1 AI時代の信頼性・安全性～特にソフトウェア関連について～(仮)
木村 光宏 (法政大学理工学部教授)
- 2 社会インフラ点検の効率化のためのAIシステムの構築と信頼性確保に関して(仮)

野村 泰稔（立命館大学理工学部教授）

3 AI活用ガイドラインに見る信頼性・安全性（仮）

三好 哲也（阪南大学総合情報学部教授）

14：50～16：50 オーガナイズドセッション

「家電など身近な製品での発火事故につながる故障を考える」

司会：遠西 繁治（くてく Tech 代表）

1 製品別の事故件数推移の紹介

神山 敦（独立行政法人製品評価技術基盤機構製品安全センター参事官）

2 リチウムイオンバッテリーはなぜ発火事故につながるか？

神山 敦（独立行政法人製品評価技術基盤機構製品安全センター参事官）

3 家電製品 差込プラグの故障事例と予防策

岡田 典彦（日本信頼性学会故障物性研究会）

4 カセットコンロ用ボンベの構造上の問題点と使用上の注意

田伏 弘幸（一般社団法人日本ガス石油機器工業会 ISO リーダー）

速水 浩基（一般社団法人日本ガス石油機器工業会業務グループマネージャー）

第2室

10：00～11：30 オーガナイズドセッション

「安全レベルの向上を目指して 既存の法体系の見直しとより良い安全文化の構築」

司会：小山 富士雄（神奈川県立産業技術短期大学非常勤講師）

1 リスク認識の育成に関して教育や社会構造の面から見た現状と課題

小山 富士雄（神奈川県立産業技術短期大学非常勤講師）

2 超高齢化・人口減少社会における消防防災の課題

関澤 愛（特定非営利活動法人日本防火技術者協会理事長）

3 老朽化建築物（既存不適格建築物）における課題

三船 康道（ジェネスプランニング株式会社代表取締役）

4 航空事故調査を例として原因究明と再発防止につながる捜査・調査のあり方

桑野 偕紀（有限会社日本ヒューマンファクター研究所取締役所長）

5 医療事故低減のための医療安全教育のあり方—さらなる安全推進を目指して—

北野 達也（星城大学経営学部教授）

12：40～14：40 オーガナイズドセッション

「木造化・木質化された建築物の火災安全性のあり方」

司会：糸毛 治（地方独立行政法人北海道立総合研究機構建築研究本部北方建築総合研究所建築研究部部長）

1 木質構造用ねじ接合部の火災加熱後の引抜・せん断性能評価

中熊 巧（東京理科大学創域理工学部建築学科）

- 2 数値解析による木質構造梁の火災時たわみ挙動の追跡—含水率を考慮した木材の高温時力学特性の検討—

岩瀬 太河（千葉大学大学院融合理工学府）

- 3 建築物の耐火試験に用いる壁炉の加熱特性

木島 裕行（公益財団法人日本住宅・木材技術センター試験研究所防耐火試験室技術主任）

- 4 耐火試験における加熱後減衰温度に関する感度解析

小宮 祐人（一般財団法人日本建築総合試験所耐火部耐火構造試験室主査）

- 5 屋根を介した火災拡大リスク：海外の事例を巡る

小林 裕（大成建設株式会社技術センター都市基盤技術研究部木・鋼研究室）

- 6 木質構造建築物の防火上のカテゴリと性能目標のあり方

鈴木 淳一（国土交通省国土技術政策総合研究所建築研究部防火基準研究室室長）

14：50～16：50 オーガナイズドセッション

「研究開発における化学物質火災のリスク」

司会：富田 賢吾（名古屋大学安全科学教育研究センター教授）

- 1 昨今の化学物質由来の火災の傾向

佐藤 康博（消防庁消防大学校消防研究センター）

- 2 化学物質の火災・爆発危険性とリスクアセスメント

佐藤 嘉彦（独立行政法人労働者健康安全機構労働安全衛生総合研究所危険性物質研究室リスク管理研究グループ部長）

- 3 保険金支払からみる研究機関の火災事故—主に国立大学の事例から—

近藤 真史（有限会社国大協サービス事業部事業課長）

- 4 研究機関で起こる化学物質火災と防火教育

富田 賢吾（名古屋大学安全科学教育研究センター教授）

第3室

10:00～11:40 オーガナイズドセッション

「（仮題）提案されている「新しい安全工学」に則ったマネジメント手法の1提案」

司会：新井 充（特定非営利活動法人リスクセンス研究会理事長）

- 1 提案する安全マネジメントの仕組みと手法とは

中田 邦臣（特定非営利活動法人リスクセンス研究会理事）

- 2 提案する安全マネジメントの仕組みと手法 ～執行役員の実務～

西村 二郎（一般社団法人ディレクトフォース）

- 3 提案する安全マネジメントの仕組みと手法 ～社外役員の実務～

柳澤 達維 (社外取締役サポート株式会社代表取締役社長)

4 提案する安全マネジメントの仕組みと手法 ～試行の現状～

大内 功 (特定非営利活動法人リスクセンス研究会副理事長)

12:40～14:40 一般セッション

14:50～16:50 オーガナイズドセッション

「(仮題)多様化する労働環境に対応した安全衛生教育と評価手法」

司会:

準備中

【6月26日(金)10:00～16:40】

第1室(講堂)

10:00～11:40 オーガナイズドセッション

「先進技術システムのリスクアセスメントの課題と対応の考え方」

司会: 野口 和彦 (日本学術会議連携会員/横浜国立大学総合学術高等研究院次世代工学
システムの安全科学研究ユニット客員教授)

講演者準備中

13:00～15:00 オーガナイズドセッション

「レジリエンスエンジニアリングーこれまでの20年、これからの20年ー」

司会: 狩川 大輔 (東北大学工学研究科准教授)

1 航空の安全とレジリエンスエンジニアリング (仮)

狩川 大輔 (東北大学工学研究科准教授)

2 原子力の安全とレジリエンスエンジニアリング (仮)

堀内 友翔 (東北大学大学院工学研究科助教)

3 建設業の安全とレジリエンスエンジニアリング (仮)

鳥居塚 崇 (日本大学生産工学部創生デザイン学科教授)

4 BCPとレジリエンスエンジニアリング (仮)

菅野 太郎 (東京大学大学院工学系研究科准教授)

15:10～16:40 オーガナイズドセッション

「老朽・遺棄化学兵器廃棄事業の節目を見据えて」

司会: 小野 恭子 (日本学術会議連携会員/国立研究開発法人産業技術総合研究所研究戦
略本部サーキュラーテクノロジー実装研究センター副研究センター長)

新井 充 (特定非営利活動法人リスクセンス研究会理事長)

講演者準備中

第2室

10：00～11：40 オーガナイズドセッション

「電力需要設備におけるスマート保安に関する最新動向」

司会：西村 和則（名古屋大学未来材料・システム研究所客員教授）

小林 浩（株式会社トーエネック技術研究開発部研究開発グループ長）

- 1 一般送配電事業者におけるスマート保安の取り組み（仮）
藤井 健二（中国電力ネットワーク株式会社送変電部）
- 2 電気設備の活線診断効率化のための部分放電常時監視装置の開発
高田 悠生（株式会社かんでんエンジニアリング電力統括部技術開発グループ）
- 3 高速道路事業のスマート保安実用化に向けたガイドライン策定
奥村 勇希（株式会社高速道路総合技術研究所施設研究部施設研究室）
- 4 需要設備におけるスマート保安の標準化に関する検討状況
小林 浩（株式会社トーエネック技術研究開発部研究開発グループ長）

13：00～14：30 オーガナイズドセッション

「墜落・転落災害に関する安全問題と防止対策」

司会：日野 泰道（独立行政法人労働者健康安全機構労働安全衛生総合研究所建設安全研究グループ部長）

- 1 安全ブロックを用いた工法に関する基礎的研究
日野 泰道（独立行政法人労働者健康安全機構労働安全衛生総合研究所建設安全研究グループ部長）
- 2 ショックアブソーバの付いた垂直親綱の力学的性能に関する墜落実験
高橋 弘樹（独立行政法人労働者健康安全機構労働安全衛生総合研究所建設安全研究グループ上席研究員）
- 3 人体ダミーを用いた低所での転落損傷分析
金 恵英（独立行政法人労働者健康安全機構労働安全衛生総合研究所建設安全グループ研究員）
- 4 解体工事に伴う飛来落下防護ネットの性能
梶原 幸治（キョーワ株式会社開発技術部）
- 5 低層住宅建築工事における『スライドレール』を用いた墜転落防止対策について・・・
上棟作業・屋根作業・外壁仕上げ作業・・・
大橋 雄司（株式会社東京 BK 足場本社安全管理企画部）
- 6 フルハーネス型墜落制止用器具の普及の取り組みについて
井上 均（藤井電工株式会社技術顧問）

15：10～16：40 オーガナイズドセッション

「近年に発生した災害の現状・防災まちづくりに係る取組と今後の地域レジリエンスの在り方」

司会：長谷川 潤（さいたま市都市局都心整備部大宮駅東口まちづくり事務所）

1 能登半島地震と奥能登豪雨災害の現状

矢内 匠（珠洲市役所環境建設課）

2 能登半島地震に係る被災者の感情遷移分析

磯打 千雅子（香川大学 IECMS 地域強靱化研究センター准教授）

3 人口減少社会における居住エリアのコンパクト化がもたらす効果の試算

山口 健太郎（株式会社三菱総合研究所政策・経済センター特命リーダー）

4 治水とまちづくり連携計画（江の川中下流域マスタープラン）

青木 健太郎（いであ株式会社中国支店河川部）

第3室

10：00～11：00 一般セッション

13：00～15：00 一般セッション

15：10～16：10 一般セッション

10. 関係部の承認の有無：第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

以上

公開シンポジウム

「昆虫科学はおもしろい～国際昆虫学会議の記念誌が伝える
昆虫科学の最前線～」の開催について

1. 主 催：日本学術会議農学委員会応用昆虫学分科会
2. 共 催：日本昆虫科学連合
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和8（2026）年6月27日（土）13：00～17：00
5. 場 所：オンライン開催
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

本シンポジウムでは、日本学術会議農学委員会応用昆虫学分科会と日本昆虫科学連合の活動報告に引き続き、まずは日本昆虫科学連合編集幹事である大村和香子氏から、記念誌「昆虫学最近の進歩」から「昆虫科学の最前線」までの昆虫科学の発展について触れながら、シンポジウムの趣旨を含めて記念誌「昆虫科学の最前線」を紹介する。それに引き続く講演会では「昆虫科学の最前線」の執筆にも深く関わり、日本の昆虫科学を牽引している4名の方々からの講演を行う。講演は、「昆虫科学のおもしろさを伝える」「未来の昆虫科学者を育てる」という公開シンポジウムの趣旨のもと、専門家や一般の大人の方はもちろん未来の昆虫科学者である（小）中・高校生にもある程度理解できて、彼・彼女らが昆虫科学にさらに興味を持っていただけるような内容としている。本シンポジウムの開催により、参加者が昆虫科学の魅力を発見、あるいは再認識する機会となってくれることを期待する。

9. 次 第：

総合司会 木内 隆史（日本昆虫科学連合事務局長／東京大学大学院農学生命科学研究科准教授）

13:00 開会挨拶・日本学術会議農学委員会応用昆虫学分科会活動報告

池田 素子 (日本学術会議連携会員／日本学術会議農学委員会応用昆虫学
学分会委員長／名古屋大学大学院生命農学研究科教授)

13:10 日本昆虫科学連合活動報告

阿部 芳久 (日本学術会議連携会員／日本昆虫科学連合代表／九州大学
大学院比較社会文化研究院教授)

13:20 第27回国際昆虫学会議記念誌の紹介

大村 和香子 (日本昆虫科学連合編集幹事／京都大学生存圏研究所教授)

休憩 (13:30～13:40)

講演

◇座長

大村 和香子 (日本昆虫科学連合編集幹事／京都大学生存圏研究所教授)

13:40 「生物振動学：昆虫の振動コミュニケーションから害虫防除まで」

高梨 琢磨 (福島大学食農学類准教授)

14:20 「昆虫の多様性とすごい能力をささえる共生微生物」

深津 武馬 (日本学術会議連携会員／国立研究開発法人産業技術総合研
究所首席研究員)

休憩 (15:00～15:10)

◇座長

志賀 向子 (日本学術会議連携会員／大阪大学大学院理学研究科教授)

15:10 「海を越えて飛んでくる害虫たちを迎え撃つ！～飛来性害虫防除の最前線」

真田 幸代 (国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構研究領域長補佐)

15:50 「社会性昆虫研究の最前線：エピジェネティック遺伝が解き明かす「繁殖しない個体」の正体」

松浦 健二 (京都大学大学院農学研究科教授)

16:30 総合討論

◇座長

日本 典秀 (日本昆虫科学連合副代表／京都大学大学院農学研究科教授)

16:50 閉会の挨拶

日本 典秀 (日本昆虫科学連合副代表／京都大学大学院農学研究科教授)

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

公開シンポジウム

第 31 回史料保存利用問題シンポジウム

「アーキビスト養成環境の現状と課題—専門職としての広がりのために—」の開催について

1. 主 催：日本学術会議史学委員会、同委員会アーカイブと社会に関する分科会、
日本歴史学協会
2. 共 催：なし
3. 後 援：全国歴史資料保存利用機関連絡協議会、日本アーカイブズ学会
4. 日 時：令和 8（2026）年 6 月 27 日（土）13：30～17：30
5. 場 所：一橋大学東 2 号館 2201 室（東京都国立市中 2-1）（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：なし

8. 開催趣旨：

国立公文書館の認証アーキビスト制度が出来てから 2026 年で 5 年が経過し、本年 1 月には 1 期 5 年間を経て新たに更新された 2 期目の認証アーキビストが認証された。この間、准認証アーキビスト制度も誕生し、また、公文書館職員を対象とする国立公文書館のアーキビスト研修も整備され、現場からも多くの認証・准認証アーキビストが生まれている。一方で、国文学研究資料館主催のアーカイブズ・カレッジは、国立公文書館のアーキビスト研修によるアーキビスト人材の養成に対して、その対象とはならない大学院生や各現場で資料保存に取り組む人たちに門戸を開いた研修により、多くの認証アーキビストを養成してきた。さらに近年では、各大学院において特色あるカリキュラムによるアーキビスト養成コースも拡充されてきている。

こうした養成制度の進展や組織統治・説明責任を重視する社会的趨勢により、いまアーキビストは、記録保存の担い手として、公文書館だけでなく、民間企業や諸団体をはじめ、各方面において活躍が求められ、そのニーズも多様化する傾向を示している。

しかし、現状ではこれまでアーキビストを専門職として雇用するアーカイブズ機関は広がりを見せることなく、かつ採用があったとしても非常勤専門職という不安定な雇用形態となっている。

そこで、本シンポジウムでは、これまでのアーキビスト養成に関わる現状と課題について整理するとともに、アーキビストの必要性を社会に根付かせ、多様な場で活躍する今後のアーキビストの在り方について様々な角度から考える機会としたい。

9. 次 第：

総合司会：大橋 幸泰（日本学術会議第一部会員／早稲田大学教育・総合科学学術院教授）

13：30～13：35 開会挨拶：若尾 政希（日本学術会議連携会員／日本歴史学協会委員長／一橋大学名誉教授）

13：35～13：40 趣旨説明：新井 浩文（日本歴史学協会史料保存利用特別委員会委員長）

13：40～14：10 第1報告（国立公文書館専門官）「国立公文書館におけるアーキビスト養成の取り組み」

14：10～14：40 第2報告 藤實 久美子（大学共同利用機関法人人間文化研究機構国文学研究資料館教授／総合研究大学院大学教授）「アーカイブズ・カレッジにおけるアーキビスト養成」

14：40～15：10 第3報告 加藤諭（東北大学史料館教授）「各大学院におけるアーキビスト養成カリキュラムについて」

15：10～15：40 第4報告 香室 結美（日本学術会議連携会員／熊本大学文書館特任助教）「民間アーカイブズのとりくみ—公害アーカイブズを中心に—」

15：40～16：10 休憩

16：10～17：25 パネルディスカッション

パネリスト：（国立公文書館専門官）、藤實 久美子、加藤 諭、香室 結美

司会：新井浩文、太田 尚宏（日本学術会議連携会員／国立公文書館特別委員会委員長／大学共同利用機関法人人間文化研究機構国文学研究資料館研究部准教授）

17：25～17：30 閉会挨拶：芳賀 満（日本学術会議第一部会員東北大学高度教養教育・学生支援機構教授）

10. 関係部の承認の有無：第一部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催委員会・分科会委員）

日本学術会議中部地区会議学術講演会
「現実への三つの眼差し——自然科学・社会科学・人文科学の世界理解をめぐる対話」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議中部地区会議
※中部8県の大学が持ち回り開催（年2回）
2. 共 催：信州大学
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和8（2026）年7月10日（金）13：00～16：30（予定）
※同日の午前中に中部地区会議運営協議会、科学者懇談会各県幹事との打合せ会を開催
5. 場 所：信州大学松本キャンパス附属図書館・中央図書館2階セミナー室
（長野県松本市旭3-1-1）（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：無

8. 開催趣旨：

予測不可能性と不確かさが常態化する VUCA*の時代において、私たちは、単一の視点では捉えきれない複雑で多面的な現実といかに向き合うべきかを問われている。これまで自然科学・社会科学・人文科学は、それぞれ固有の問いと方法にもとづき、世界の異なる側面を解明してきた。しかし今日では、個別の学問領域の垣根を越えた総合知の構築が求められている。

自然科学、とりわけ宇宙物理学においては、私たちの世界理解が本質的に「近似」や「仮説」に基づいていることが前提とされる。不完全性に基づく科学的世界の捉え方はまた、私たちの選択や創造、社会の意思決定とも深く結びついている。社会科学としての管理会計研究では、理論的考察とともに、山間部地域に固有のマネジメント課題と向き合うための方法を構築することが課題となっている。一方、人文科学のひとつである仏教学は、文献にもとづいて仏教の哲学的世界観を解明してきたが、仏教が社会に根ざした宗教である以上、その社会へのコミットメントも視野に入れ、社会学的アプローチも行われている。

本企画は、自然科学、社会科学、人文科学という性格の大きく異なる三分野をあえて並置し、それぞれの世界理解の対話を試みる。異なる方法論の背景にある共通の問題意識を共有することで、これからの学術研究における複眼的な現実理解の可能性を探りたい。

*VUCA=Volatility (変動性)、Uncertainty (不確実性)、Complexity (複雑性)、Ambiguity (曖昧性) の頭文字を取った造語。将来の予測が困難な、激動の時代を表すキーワード。

9. 次第:

(1) 13:00~13:10 開会挨拶

信州大学長 中村 宗一郎

(2) 13:10~13:20 開会挨拶

日本学術会議副会長 磯 博康

(日本学術会議第二部会員、国立健康危機管理研究機構 国際医療協力局 グローバルヘルス政策研究センター長/理事長特任補佐)

(3) 13:20~13:30 主催者挨拶

日本学術会議中部地区会議代表幹事 高田 広章

(日本学術会議第三部会員、名古屋大学未来社会創造機構教授)

(4) 13:30~13:40 科学者との懇談会活動報告

・科学者との懇談会活動報告

松田 正久 (中部地区科学者懇談会幹事長/愛知教育大学名誉教授、元学長)

・日本学術会議第 196 回総会を傍聴して

保柳 康一 (中部地区科学者懇談会長野県幹事/信州大学名誉教授)

(5) 13:40~16:25 学術講演会の演題及び演者

「現実への三つの眼差し——自然科学・社会科学・人文科学の世界理解をめぐる対話」

・藤田 あき美 (信州大学学術研究院准教授 (工学系))

「(仮題) 物理と情報の視点から考える、世界理解と人間の選択」

・関 利恵子 (信州大学学術研究院教授 (社会科学系))

「(仮題) 中山間地域における新たなマネジメントの可能性—ひと・環境・営みから地域の在り方を考える—」

・吉水 千鶴子 (日本学術会議第一部会員、公益財団法人東洋文庫研究部研究員、筑波大学人文社会系名誉教授)

「(仮題) 仏教から見た人間の現存在と社会」

・質疑、まとめ

(6) 16:25～16:30 閉会挨拶

日本学術会議中部地区会運営協議会委員 護山 真也
(日本学術会議連携会員、信州大学人文学部教授)

司会：護山 真也（日本学術会議連携会員、信州大学人文学部教授）

10. 関係部の承認の有無：科学者委員会

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

(下線の講演者等は、主催地区会議所属の会員・連携会員)

公開シンポジウム
「学術研究の自由と独立性とは何か：歴史・理論・課題」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議法学委員会
2. 共 催：基礎法学系学会連合（日本法社会学会、日本法哲学会、法制史学会、比較法学会、民主主義科学者協会法律部会、比較家族史学会）
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和 8（2026）年 7 月 18 日（土）13：00 ～ 17：30
5. 場 所：オンライン開催
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：なし

8. 開催趣旨：

本シンポジウムのテーマには、おおむね、以下の問題群が含まれる。

第 1 に、テーマ設定の中心になると思われる、「学術研究の組織形態（ガバナンス）」を検討することであり、総合科学技術・イノベーション会議、日本学術会議（科学アカデミー）、国立大学・公立大学・私立大学のガバナンス改革などを検討することである。

第 2 に、学術研究を支える法原理として、学問の自由（権利または特権としての理解）や大学の自治（教授会自治、全構成員自治、理事会自治）などについて、学術研究組織の人事と財政（寄附や公的資金）の独立性やアカウントビリティの在り方といった点を踏まえて検討することである。

第 3 に、学術研究と国家との関係として、国家によるガバナンス「改革」を通じた学術組織の「自由」や「独立性」への介入以外にも、専門知と政治（民主主義）との関係でも、政策形成への学術研究の成果の活用が強調され、政府による大学・研究者への直接的介入や、資金援助を通じた誘導などが重視されていることを検討することである。

第 4 に、学術研究と市民社会との関係として、科学者の社会的責任（アカウントビリティ）、近年の政策である産学連携（産業界との関係）や、最近のポピュリズムの広がりによる専門知否定（科学への信頼低下、大学の権威低下、さらには反知性の動向）やそれを前提にした市民との協働による政策形成について検討することである。

第 5 に、研究者・プロフェッション論として、学術研究の組織におけるジェンダー等の

「多様性」の現状や、その「多様性」確保によって学術研究の内容等にいかなる影響があり得るのかについて検討することである。

以上の5つの問題群において、基礎法学たる、憲法学、法制史、比較法（アメリカ法）、法哲学、法社会学、比較家族史学会の視点から、報告を行い、総合討論を行う。

9. 次 第：

挨拶

13:00 開会挨拶

川嶋 四郎（日本学術会議第一部会員／同志社大学法学部教授）

第1セッション「報告前半」

◇総合司会

大西 楠テア（日本学術会議連携会員／東京大学大学院法学政治学研究科教授）

13:10 オンライン会議の質疑の仕方等の説明

13:15 企画趣旨説明

榊原 秀訓（日本学術会議連携会員／南山大学大学院法務研究科教授）

13:25 ガバナンスと「学問の自由」—学術体制の改革後の大学から考える

大河内 美紀（日本学術会議連携会員／名古屋大学大学院法学研究科教授）

13:50 学術研究活動をわらうこと：歴史的素描を通じた、その理論的意義の推知

守矢 健一（大阪公立大学大学院法学研究科教授）

14:15 アカデミアにおけるガバナンス：アメリカ合衆国の場合

紙谷 雅子（学習院大学名誉教授）

休憩（10分）（14:40～14:50）

第2セッション「報告後半とコメント」

14:50 学術研究を信用失墜させる知性の頹落—研究者はまず自らの身を正せ

井上 達夫（東京大学名誉教授）

15:15 学問の自由と自律的規範形成

佐藤 岩夫（日本学術会議連携会員／東京大学相談支援研究開発センター特任教授・センター長／東京大学執行役・副学長・名誉教授）

15:40 ジェンダー視点から問う学術研究の自由と独立性

三成 美保（日本学術会議連携会員／追手門学院大学法学部教授／奈良女子大学名誉教授）

休憩（10分）（16:05～16:15）

第3セッション「総合討論」

16:15 司会 榊原 秀訓（日本学術会議連携会員／南山大学大学院法務研究科教授）

愛敬 浩二（日本学術会議連携会員／早稲田大学法学学術院教授）

17:25 閉会挨拶

南野 佳代（日本学術会議第一部会員／京都女子大学法学部教授）

10. 関係部の承認の有無：第一部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

(下線の講演者等は、主催委員会委員)

公開シンポジウム
「量子・AI・脳と農芸化学の融合—食品科学の新潮流—」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議食料科学委員会・農学委員会合同農芸化学分科会
2. 共 催：なし
3. 後 援：公益社団法人日本農芸化学会
4. 日 時：令和8（2026）年7月25日（土）13：00～16：30
5. 場 所：オンライン開催
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

近年、量子技術やAI、脳科学の進展が農芸化学・食品科学に新たな視座をもたらしています。本シンポジウムでは、これら異分野の融合によって生まれる革新的な研究・応用の可能性を探り、未来の食と人間の関係を再定義します。

9. 次 第：

13:00 開会

竹中 麻子（日本学術会議第二部会員／明治大学農学部農芸化学科教授）

13:05 「AI×フレーバー：おいしさ設計」

伊藤 圭祐（静岡県立大学食品栄養科学部准教授）

座長：小川 剛伸（日本学術会議連携会員／京都大学大学院農学研究科助教）

13:40 「量子×発酵×食成分：フードメタボロミクス」

福崎 英一郎（大阪大学大学院工学研究科教授）

座長：秦 洋二（日本学術会議連携会員／月桂冠株式会社専務取締役／製造本部長）

(14:15-14:25 休憩)

14:25 「量子×食品工学：食品の内部構造と品質」

小川 剛伸（日本学術会議連携会員／京都大学大学院農学研究科助教）

座長：熊谷 日登美（日本学術会議連携会員／日本大学生物資源科学部特任教授）

15:00 「脳×AI×食情報：五感と脳活動」

岡本 雅子（東京大学大学院農学生命科学研究科准教授）

座長：室田 佳恵子（日本学術会議連携会員／島根大学学術研究院農生命科学系教授）

15:35 「脳×栄養：記憶と食行動」

喜田 聡（東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

座長：竹中 麻子（日本学術会議第二部会員／明治大学農学部農芸化学科教授）

16:10 総合討論

座長：東原 和成（日本学術会議連携会員／東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

16:30 閉会

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

○国内会議の後援（1件）

以下について、後援の申請があり、関係する部に審議付託したところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。

1. Japan Open Science Summit 2026 (JOSS2026)

主催：大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立情報学研究所（予定）

国立研究開発法人科学技術振興機構（予定）

国立研究開発法人物質・材料研究機構（予定）

文部科学省科学技術・学術政策研究所（予定）

一般社団法人学術資源リポジトリ協議会（予定）

情報知識学会

合同会社 AMANE

期間：令和8年6月22日（月）～6月26日（金）

場所：オンライン開催（一部ハイブリッド：国立情報学研究所会議室（予定））

参加予定者数：約250～500名（前年度実績）

申請者：情報知識学会 会長 芦野 俊宏

審議付託先：第三部

審議付託結果：第三部承認

○今後の予定

●幹事会

第400回幹事会	令和8年5月29日(金)	13:30から
第401回幹事会	令和8年6月26日(金)	13:30から
第402回幹事会	令和8年7月17日(金)	13:30から
第403回幹事会	令和8年7月31日(金)	13:30から
第404回幹事会	令和8年8月21日(金)	13:30から
第405回幹事会	令和8年9月3日(木)	13:30から
第406回幹事会	令和8年9月18日(金)	13:30から

●総会

第196回総会	令和8年4月9日(木)～11日(土)
第197回総会	令和8年8月6日(木)～7日(金)
第198回総会	令和8年10月1日(木)～3日(土) (予定)